木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会　会議経過要旨

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="3">第２回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会</td></tr>
<tr><td>日　　時</td><td>平成 27 年 7 月 21 日（火）
午後 3 時～5 時</td><td>場　　所</td><td>木津川市役所　５階
全員協議会室</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出　席　者</td><td>委　　員</td><td colspan="2">【第１号】
■福本 桂子委員、　■山川 博一委員
【第２号】
■真山 達志委員(会長)、　■今里 佳奈子委員(副会長)
【第３号】
■市川 浩之委員、■中村 香苗委員、■川森 昌代委員、
■北島 宣委員、■本多 浩治委員、■中島 浩之委員、
■久保田 文子委員、■七條 歩委員、■佐脇 貞憲委員、
■西村 正子委員、■三上 かず子委員、■加藤 千景委員、
■梅本 好成委員、□佐藤 啓子委員、■大倉 竹次委員、
■湯瀬 敏之委員</td></tr>
<tr><td>そ の 他</td><td colspan="2">㈱地域未来研究所　倉嶋　祐介</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="2">尾﨑市長公室長、尾﨑市長公室次長、廣岡学研企画課主幹、
茅早企画政策係長、佐々木企画政策係主任</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="3">１．開会
２．議事
（１）報告事項
①市民アンケート調査結果について【資料１】
②ワークショップ協議結果について【資料２】
（２）協議事項
①意見交換【資料３】
②木津川市創生総合戦略の「柱」について
（３）その他
①その他
３．閉会</td></tr>
<tr><td>会議結果
要　　旨</td><td colspan="3">１．開会
開会を宣言した。

２．議事
会議録の署名委員として福本委員を指名した。
（１）報告事項
①市民アンケート調査結果について
資料１に基づき、事務局から説明があり、確認した。
②ワークショップ協議結果について</td></tr>
</table>

	資料２に基づき、事務局から説明があり、確認した。 **（２）協議事項** ①意見交換 創生総合戦略が担うべき役割や重点的に取り組んでいくべき分野について、意見交換を行った。 ②木津川市創生総合戦略の「柱」について 木津川市ならではの戦略とするための柱立てについて、第３回推進委員会までに事務局に提出することとした。 **３．その他** ①次回推進委員会の日程について ８月２７日（木）午前１０時から開催することとした。 **４．閉会**
会議経過要旨 **◎会長** **〇委員** **→事務局**	**１．開会** 会議結果要旨のとおり。 **２．議事** **（１）報告事項** ①市民アンケート調査について 【ハローワーク田辺の雇用失業情勢（平成27年5月）を追加配布し、説明があった。】 ハローワーク田辺における有効求人倍率は、0.61（全国平均値1.19の約半数）となっており、ハローワーク木津内だけでみると0.48とさらに下がり、2人に1つの仕事があるか・ないかという状況である。 求職者のほとんどは木津川市が占め、笠置、和束、南山城村はごく少数となっていることから、木津川市の有効求人倍率がほぼ0.48であると認識して良いと考えられる。奈良県全体では0.98、ハローワーク奈良（奈良市・生駒市を管轄）では0.94となっており、県境を跨ぐだけで全く倍率が異なる状況である。 新規求職者のうち、在職者は28%、無業は14%、自己都合で退職された方が42%、という状況となっている。景気の向上を受け、より良い条件を求めて職を探される方が増えてきている。 【主な意見・質疑等】（〇…質疑・意見、→…質疑・意見に対する返答） 質疑なし ②ワークショップ協議結果について →8月中には第2回ワークショップを開催し、現況・課題を解決する取組みや、自身の関わり方等を協議頂きたいと考えている。 【主な意見・質疑等】（〇…質疑・意見、→…質疑・意見に対する返答）

	質疑なし **（２）協議事項** ①意見交換 【主な意見・質疑等】（○…質疑・意見、→…質疑・意見に対する返答） ◎行政運営の総合的指針として、総合計画があり、さらに総合戦略を策定する状況にある。似たようなものが２つあるという状況を避けるため、総合戦略の役割を設定し、深化してはと考え、明確な柱を打ち出してはどうか。そして、柱に応じて、これまでの取組みを見直し、多様な主体がそれぞれの長所を活かして取り組むことができれば、まさに戦略となるのではないかと考える。 今協議において、木津川市ではいったい何があるかといったことを議論頂きたい。この点が、戦略の柱を定めていくうえでの最大のポイントになる。 ○総合戦略は、総合計画とは似て異なるものとの理解で良いか。 ◎全く別ではないが、人口減少・少子高齢化の打開のため、総合計画に記載されている内容も含めて優先的に取り組むものを打ち出していくような形で考えていただければと考える。 ○第１次総合計画の策定時は、合併を受け、「もれなく入れる（網羅する）ことが大事だ」という議論であったと思う。そのように市民の意見を取り入れてもらったわけだが、取り組むテーマに対して庁内で横のつながりを作らず、連携が必要な取組みの窓口が明確でないことが残念である。 私自身も、観光関連の活動の中で事務方に若い世代がおらず、高齢ながら続けてはいるが、限界を感じている。行政内の横の連携や、活動団体へのバックアップが無いと、市民活動は潰れていくのではないかと危惧している。 ○この委員会は、戦略を立てるためのアイデア出しの場と考えている。現状の厳しさに関する意見は理解できるが、ではそれを解決していくためにどうすればよいかといった議論が重要である。行政への注文ということであれば、別の場でお願いしたい。 子育て環境に関しては、市長公約としての思いは強いが、時代を考えると当然の施策と思う。子育て環境整備のために何が必要かを考えること

	が重要。そこで、戦略案やアンケート結果をみていると「交流」というキーワード、「集う場所」というものが出ている。 都市と農村、世代間の交流など、交流が１つのキーワードになるのではないか。 ○行政の縦割り、横の連携の重要性については、これまで幾度と無く叫ばれ、取り組まれているところではあるが、行政としても、あらゆる場で様々な連携を必要とされ、どうしたらよいか、わからなくなっている現状はあるように思う。 総合戦略では、あらゆる取組みに一本の串を刺せる（戦略全体に通じるような考え方や方針を定める）と、戦略に一貫性や特色が出るのではないかという意味である。 ○最終目的地は「道の駅」だと考える。第二京阪道路と京奈道路等が平成２８年度に結節（城陽 JCT・IC～八幡 JCT・IC 間）されたときの最終目的地は木津川市の道の駅にしたい。 沖縄の国際通りをトランジットモール化したことで、年々観光客が増えている。 この秋の産業祭も、木津と山城が別々にやるのが残念。合併したら３町一緒になって商売も一体的に、新たな場所でやって欲しい。産業（商売）と農業（豊かな農産物）と文化発信（祭を味わい、後継者を育成）ができることが望ましい。そういった場所を作って頂ければと考える。 また、木津川市は安全な環境にあるが、災害に備えて楽しみながら防災を考える拠点ができればと考えている。炊き出し等に補助金を付け、地場の農産物を使うなどができないか。将来的に、観光にも繋がるのでは。 ○今日の委員会で話されたこと、決まったことが市民に何も伝わってこないと感じている。伝える方法を考えなくてはいけない。会議には市出身者だけではなく、転入者等の外部の視点も入れるなど、一般市民が参加できる枠を設けてはどうか。 ワークショップでは、転入者に対し地場野菜の詰め合わせ+情報冊子（求人や子育て等、広告収入など）を届ける、転出者へも最後のプレゼントとして情報を届けるといった内容も提案した。 ○「木津川市は学力№１」となれば、今の若い世代はたくさん来るのではないか。今は一人の子供を大事に育てる時代なので、そういった方法も考えられるのではないか。 また、当尾小学校の活用という課題は、宿泊施設を伴う体験学習施設の

	検討を希望する。小学校 5，6 年での体験学習は現在、他市に行っている。周辺には社寺もあり、環境的には恵まれており、もったいない。 ○市の特色は、これといって無いという感覚がある。しかしながら、人口増加の事実があり、アンケート結果を見ると、良いイメージをもって流入されているようなので、活かしていくべき。 ワークショップで出ていた、市内在住者を採用するという話は素晴らしいと思った。雇用があれば人口も増え、活性化するだろう。 教育面の充実を打ち出していけば、若い世代も増えていくだろう。 ◎木津川市は、今後も人口が増える恵まれたまちである。しかしながら、ただ傍観しているだけでは、他市に取られていく。若い世代・子育て世代に市の魅力を感じてもらうにはどうすればよいか。ここが発展できれば、目標とするビジョンも実現される。 子育てに注力すると、相対的に高齢者施策が薄くなるように感じるかもしれないが、そもそものベースとして総合計画で網羅的に担保されている。今回の総合戦略は、人口ビジョンを実現するためにどこに重点をおき取り組んでいくかという話である。 高齢者を見捨ててしまうようなまちは、将来的に人口が流出し人口減少に悩むことになる。そういう意味では、高齢者が生き生きと暮らせるまちについて考える必要もある。先ほどの世代間交流などを通じて、高齢者も子育てで活躍できるような生きがいが充実したまちとなれば、年を重ねたあとも居場所があるという安心感や、他世代とも交流できるまちという認識が生まれ、また今の若い世代にとっても将来の安心感が増し、人口も安定するのではないか。決して他世代を軽視するというものではないということは理解頂きたい。 子育てという観点から、先ほどの農業も、食育や食の安全という重要なテーマである。子育てに力を入れるなかで、安心・安全な食べ物の提供に力を入れている、ということになると、農業政策としても子育てに力を入れているという図が描ける。そうなると柱が明確になる。市は子育てに頑張っており、自分たちも努力する。努力の結果として自分に還元される。 子どもたちが行ってみたい観光プランを考えられないか。観光で訪れた地に将来住みたいという意識を持ってもらえるようなど、観光でも若い世代を取り組む方策を重点的に取り込むことはできるのではないか。 子育てが柱となれば、市長の方針にも合っているしスムーズに設定できるのではないか。 人口が増える若い力があるのが木津川市最大のメリット・特色である。

	うまくすればまだまだ人口は増加する。定着させるための戦略も必要で、実現すれば相当程度安定すると予想される。 ○過疎化となり、伝統・文化を受け継ぐ人がいないこともある。地域内の人間しかだめだという縛りもあるようだが、地域の枠を超えて自由に参加できるような体質とし、伝統芸能を子どもたちに伝えて守っていくことも大事ではないか。 ニュータウンに引っ越してくる人たちは、まちの歴史を何も知らない。「これではいけない、魅力を伝えていかなくてはならない」と感じてくれる人もいる。 ◎どうしても世代別の話になりがちであるが、高齢者が子どもたちに伝える・交流できると、子どもは地域に対する理解が深まり、高齢者も元気を貰える。そういう連携につながっていけば、子育て・子育ちというテーマの中にでも、高齢者が関わっていくことができる。 最近は、市が整備する公園が、どんどん遊びにくくなっている。ボール遊びができない、など制約や事情がある。 例えば、市の公園整備の際に、徹底的に遊べる公園にしようなどの発想が出てくれば、子育てのしやすいまちになる。あのまちに行けば、だれかが面倒を見ている、そういうまちをつくっていくための戦略を立てられればと思う。 ○行政がやることは、基本的に供給側の視点である。今回のアンケートで市民の需要がわかってきたので、これにどう対応していくかが重要である。 まちの力というのは、「雇用をどう吸収するか」と、「生産高をどう向上させるか」であると考える。 魅力あるまちとして、都市の品格をどうするかも課題である。大阪に本社を置く企業は東京に移転する傾向があるが、京都に本社を置く企業はその傾向は無い。これは都市に品格を感じているからではないか。 文化・芸術を都市のインフラとして持続的な形で整備していくことも重要な視点。例えば、若いアーティストを 3 人程度、年間 500 万円程度の報酬で招き、市内に住んで、文化発信をしてもらうといった取組みを 10 年も続ければ、アートのまちとして充分に発信できるのではないか。木津川アートももっと発信していくべき。 交通の便の問題で住みたくないという側面もある。ある程度のインフラも考えていく必要がある。

	◎文化・教育は都市の品格に関わる。終の棲家を考えると、文化的背景・基盤が整っているほうが良いと思うのが人情である。これは若い人にも重要な要素ではないか。 特に子どもがいる世代は教育面を重要視する。文化・教育施策も、若者に魅力のある子育てのしやすいまち、という柱で考えると、取組み方針は自ずと決まってくるように思う。 ○災害もなく平和なまちで環境も良いが、長年住んでいると、その素晴らしさに気づけていない。 確かに、買い物に行くのは不便で、楽しく買物に行ける場所がない。 木津川沿いの整備された公園が無いのが物足らない。周辺の河川環境も整備されておらず、危険なく安心して遊べる環境にない 外部に対し、豊かな地場産業の PR ができる場（道の駅）がない。 合併前は、旧町内にしか友人がいなかったが、合併後は旧町外にも友人が増え、交流が深まった。社寺なども知らなかったが、たくさんあるという事実に気づいた。訪れて楽しい施設があれば、もっと楽しいまちになると思う。 ○旧山城町は、過疎化・高齢化のまちになっている。アスピア前の住宅地は若い世代中心のまちとして開発されているが、旧住民と転入者の交流がハードルになっている。分断されているように感じる。 子ども会でも新住民の参加を促すため、入会金撤廃などに取り組んでいるが、思うように進んでいない 市民として１つの意識を共有できるような、交流の場所を設ける必要があると考える。 合併したのに、産業祭も町別で開催している。意識としては、地元の感謝祭なので、互いの地域へ行くのは難しいという判断だが、ここにも交流に対する意識のハードルが現れていると考える。 ◎合併したまちで一体感を出していくことが重要というのは言われている。一方で、生まれ育ったまちへの愛着や、「自分たちのまちは他とは違う」といった意識があることも事実である。 地域特性を残しながら一体感を醸し出すことができれば素晴らしい。 旧町同士、互いが持つ資源を活用して、異なるアプローチでうまく競い合うことができれば、魅力的なアピールができる。 ○今回の総合戦略は、2040 年の人口を 86,300 人とし、住んでいて良かったと思える状況にするために、今後 5 年間、何に取り組んでいくかとい

	う戦略である。 行政の縦割りの問題もあるが、戦略の柱を１つ決めて、一点突破でいくことによって、達成の見通しができるのではないかと感じている。 交流、後継者育成、防災、情報発信、学力 NO.1、文化・伝統を受け継ぐ、など、キーワードが色々と出たが、総じて、「子育て」や「若者の定住」という話に結びつけて考えていくことができると感じた。 ○外国人との交流に携わっており、雇用創出・交流の場の創出について考えている。サンタモニカから来られた中学生からは、「木津川市は本当にきれいなところ」という評価を頂いたが、外国人受け入れのために空き家を住めるようにする、目標としてはそういう感覚で進めれば、骨子の柱を見据えた目標が１つできるのではないか。 サンタモニカとはもう１７年の付き合いがある。中学生のみならず、小学生、高校生、大学生、企業の方とも交流が持てるよう、姉妹都市提携を目指していきたい。 ◎国際交流・グローバル化という視点は、都市の品格という視点でも重要。若い世代には、「世界に向かって広がるまち」は魅力的に映るだろう。 ○歴史・資源活用という立場で参加している。昨年、京都国立博物館で「南山城古寺巡礼」が開催され、７万人が来場された。この地域にはそのような歴史資源がある。しかしながら、地元住民が地域の歴史的価値を知らないという状況もあり、地域の素晴らしさを知っていただくということも都市の価値になればと考える。 ◎地域の素晴らしさに気づくことが、観光で一番大事なことだと思う。観光とは国の光を観るとの意味であり、地元が光っていないと誰も見に来ない。誇りを持てる・自慢できる・見てもらいたいというものでなければならない。そういう風にしようと思うと、小さい時から地域の素晴らしさに接し、他人に話せるようにしておくことが重要である。 ○５年前に東京国立博物館で本を見つけた。記載１４項目のうち９項目が木津川市である。今後は、東京オリンピックも控え、滞在型観光に注力されることになる。 現状は、木津川市を拠点とした観光周遊をしてもらえていない。ここを拠点にして回れるようになればと思う。そのためにも、「木津川市に来たらこんなことができる」というものを、幼少期から味わえるようなものを作る必要がある。

	◎そのような本は、市民ですら気づいていない。全国区であるのに地元で認識されていないのは問題である。 ○そういった意味では、日本遺産（文化財を群体（点から面への展開）として捉え、従来の保護一辺倒から積極的に活用することに目的を転換した新しい施策）も知られていない。平成２７年４月に指定された１８件の中には「日本茶 800 年の歴史散歩」があり、関係自治体の京都府下８市町村として木津川市も指定されている。 先ほどの南山城古寺巡礼や日本遺産もあり、また宇治茶としては文化遺産も目指している状況にある。オリンピックも開催され、外国人観光客も集客したいが、地元にお金が落ちないと続かない。交流によって経済が回る仕組みを作りたい。 また、合併による地域間意識差等についても、交流によって払拭していきたい。 京都府としては府域の均衡ある発展を実現するため「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」が推進されており、また、新名神高速道路（大津 JCT～城陽 JCT・IC）が平成３５年に完成し、JR 奈良線も複線化がされる。 都市格、品格のあるまちを目指すには、広域的な観点も必要である。南の玄関口は木津川と考え、木津川に来られた方が、市内・和束・笠置にも足を伸ばせるような観点を持つと、都市格が上がっていくのではないか。このような気概を持っていただければと思う。 ○都市の品格など考えたこともなかったが、重要性がわかったような気がする。市としては良い環境にあるし、今後も良くしていきたい。 交通・買物は不便だったりもするが、自然・文化遺産など色々な魅力がある。2040 年の目標もみんなで頑張れば達成できるのではないかと思った。 南の玄関口という点で残念なのは、木津駅の開発が、玄関口としては貧相であることである。客を呼びこむには、何とかならないかと思う。 山城にはアスピア、加茂にはあじさいホール、木津にはいずみホールとあるが、いまひとつ活用されていないのではないか。有名人を呼ぶ等ではなく、地元住民が活用して、活動の場・発表の場にしていけたらと感じている。 ②木津川市創生総合戦略の「柱」について 【主な意見・質疑等】（○…質疑・意見、→…質疑・意見に対する返答）

	◎総合戦略の柱を１つ打ち出して、柱に沿った戦略の中で色々な取組みを組立てて行きたいと思っている。戦略に入らないものについては、総合計画で取り組んでいくことについては了解頂きたい。 若者や子育てをしようとうする世代や子どもたち自身にとって魅力のあるまちを目指すことを柱に据えて、観光なら、高齢者との交流なら、学校教育なら、文化は、国際化、農業はどうすれば効果的か、貢献できるかという視点で戦略を組み立てていくことになる。柱があることによって、拠り所となれば、戦略の意味があると思う。 柱にするうえで、一定程度整理された表現にする必要がある。そこで、皆さんに、次回までに戦略の柱のキャッチフレーズ的な表現・アイデアを考えて頂きたいと思う。【子どもたちや親世代が暮らしやすい・子育てしやすい・子どもたちが育ちやすいまちを実現する】ことを木津川市の人口増加の中心・戦略の柱にするという表現を考えて頂きたい。 次回までに、説明や思いを添えて事務局に知らせて頂ければ、資料として取りまとめる。是非、家族や友人にもアイデアを募って頂きたい。戦略のキーになる表現なので、誰もが納得できるようなものを工夫して頂きたい。 **３．その他** ①次回推進委員会の日程について 会議結果要旨のとおり。 **４．閉会**
その他特記事項	